

平成24年度病害虫発生予報第6号

平成24年9月3日
愛知県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
イネ	いもち病(穂いもち)	平年並	全域	8月下旬の発生量は平年並 8月上旬の葉いもちの発生量はやや少なかった 9月の降水量は平年並	± - ±
	トビイロウンカ	平年並	全域	8月下旬の発生量は平年並	±
	ツマグロヨコバイ	やや多い	全域	8月下旬の発生量はやや多い	+
	コブノメイガ	少ない	全域	8月下旬の発生量は少ない	-
	フタオビコヤガ	やや少ない	全域	8月下旬の発生量はやや少ない	-
	斑点米カメムシ類	多い	全域	8月下旬の発生量は多い	+
ダイズ	ハスモンヨトウ	平年並	全域	8月下旬の発生量は少ない フェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない 9月の気温は高い	- - +

・防除対策

〔イネ・ツマグロヨコバイ〕

ダントツ粒剤やスタークル豆つぶなどで防除しましょう。収穫時期が近づいているので、使用時期に注意してください。

〔イネ・斑点米カメムシ類〕

本日発表の「斑点米カメムシ情報第3号」を参照してください。

・留意事項

8月中旬以降、セジロウンカによるイネの枯死や茎葉の黄化が発生しています。収穫までに日数があり、幼虫の発生量が多いほ場では防除しましょう。トビイロウンカは犬山市の水田内で捕獲されました。詳しくは本日発表の「ウンカ情報第4号」を参照してください。

イネツトムシの発生量が尾張地域を中心に過去10年で最も多い状況です。必要に応じて防除しましょう。

ハスモンヨトウは、残暑が厳しく降雨の少ない年に多発する傾向があります。今後の発生状況に注意してください。防除対策については、本日発表の「ハスモンヨトウ情報第2号」を参照してください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ウンシュウミカン	黒点病	平年並	全域	8月の枯れ枝上の胞子形成量は多い 8月下旬の発生量はやや少ない 9月の降水量は平年並	+ - ±
	ミカンハダニ	平年並	全域	8月下旬の発生量はやや少ない 9月の気温は高い	- +
	チャノキイロアザミウマ	平年並	全域	8月下旬の発生量はやや少ない 黄色粘着トラップにおける誘殺数はやや多い	- +
モモ	せん孔細菌病	平年並	全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量は平年並	± ±
	モモハモグリガ	やや少ない	全域	8月下旬の発生量は少ない フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	- ±
ブドウ	べと病	やや少ない	全域	8月下旬の発生量はやや少ない 9月の降水量は平年並	- ±
カキ	炭疽病	平年並	全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量は平年並	± ±
	うどんこ病	平年並	全域	8月下旬の発生量は平年並	±
果樹共通	カメムシ類	平年並	全域	フェロモントラップ及び予察灯における誘殺数は平年並	±

・留意事項

ナシでは、ナシヒメシンクイの発生量は現在のところ平年並ですが、例年9月第1半旬に成虫の発生量が多くなるので、成虫発生ピークの7～10日後に防除しましょう。ハダニ類の発生が多いほ場では、早期落葉を防ぐために防除しましょう。ナシ黒星病の発生量が多かったほ場では、越冬病原菌量を減らすため、秋期防除を徹底しましょう。

ウンシュウミカンでは、チャノキイロアザミウマの発生量が多いほ場があります。8月1日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第4号」を参考に防除しましょう。

モモせん孔細菌病の発生量が多いほ場があります。越冬病原菌量を減らすために秋期防除をしましょう。

フェロモントラップ及び予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺数は、現在のところ平年並です。スギ・ヒノキ林の近くの果樹園では、台風通過後に突発的に飛来が増加することがあります。園内をよく観察し、飛来を確認したら防除しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キャベツ	黒腐病	平年並	全域	8月下旬現在発生を確認していない(平年並) 9月の降水量は平年並	± ±
ダイコン ハクサイ キャベツ	コナガ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	ハイマダラノメイガ	やや多い	全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の気温は高い	± +
ネギ	さび病	やや多い	全域	6月下旬の発生量は多い 9月の気温は高い	+ -
ハウレンソウ ナス(施設)	ミナミキイロアザミウマ	やや多い	全域	8月下旬の露地ナスでの発生量は平年並 9月の気温は高い	± +
トマト (施設)	コナジラミ類	平年並	全域	黄色粘着トラップにおける誘殺数は平年並	±
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多い	全域	8月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 9月の気温は高い	± ± +
	オオタバコガ	やや多い	全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 9月の気温は高い	+ +

・防除対策

〔ダイコン、ハクサイ、キャベツ・ハイマダラノメイガ〕

ダイコンではハチハチ乳剤、フェニックス顆粒水和剤など、ハクサイではプリンスフロアブル、スピノエース顆粒水和剤など、キャベツではプレオフロアブル、プレバソンフロアブル5などで防除しましょう。

〔ネギ・さび病〕

アミスター20フロアブル、ラリー乳剤などで防除しましょう。

〔ハウレンソウ、ナス(施設)・ミナミキイロアザミウマ〕

ハウレンソウではパダンSG水溶剤など、ナスでは、スタークル顆粒水溶剤などで防除しましょう。

〔野菜共通・ハスモンヨトウ〕

本日発表の「ハスモンヨトウ情報第2号」を参照してください。

〔野菜共通・オオタバコガ〕

本日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参照してください。

・留意事項

気象予報によると9月は気温が高いと予想されているため、チョウ目害虫の発生量が急増する可能性があります。育苗中や定植直後に食害されると被害が大きくなるので、育苗ほでの防虫ネットの設置、育苗期間中や定植時に農薬を使用するなど、十分な対策を実施しましょう。

野外に設置した黄色粘着トラップにおけるコナジラミ類の誘殺数が、田原市で多くなっています。タバココナジラミは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介します。防除対策など詳しくは、本日発表の「トマト黄化葉巻病情報第1号」を参照してください。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	アブラムシ類	平年並	全域	8月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	やや多い	全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の気温は高い	± +
	アザミウマ類	平年並	全域	8月下旬の発生量は少ない 9月の気温は高い	- +
	ハスモンヨトウ	やや多い	全域	フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並 9月の気温は高い	± +
	オオタバコガ	やや多い	全域	フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並 9月の気温は高い	± +

・防除対策

〔キク(露地)・ハダニ類〕

カネマイトフロアブル、スターマイトフロアブルなどで防除しましょう。

〔キク(露地)・ハスモンヨトウ〕

本日発表の「ハスモンヨトウ情報第2号」を参照してください。

〔キク(露地)・オオタバコガ〕

本日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参照してください。

・留意事項

中山間地域で白さび病の発生量が多いほ場があります。ほ場での発生に注意し、初期防除に努めましょう。

参考

東海地方 1か月予報(名古屋地方気象台8月31日発表)

予想される向こう1か月の天候

天気は、数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は高い確率50%です。降水量、日照時間は平年並の確率が40%です。

週別の気温は、1週目は高い確率が50%、2週目は平年並または高い確率ともに40%、3~4週目は平年並の確率が40%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率

〔気温〕 低い : 20% 平年並 : 30% 高い : 50%

〔降水量〕 少ない : 30% 平年並 : 40% 多い : 30%

〔日照時間〕 少ない : 30% 平年並 : 40% 多い : 30%